がん患者のアピアランスケアに対する公費助成制度の活用

1.背景及び研究実施の意義・必要性

がん治療の中で手術療法による乳房の喪失や変形、薬物療法や放射線療法による脱毛は、外見上も大きな変化をきたすため心理的影響が大きい。治療をしながら仕事や社会活動を続けるケースは増加しており、ウイッグ、医療用帽子、補正具の着用で外見変化へのケアが行われている。このような状況の中で、2020 年 4 月より、当院所在地の自治体(魚津市)による「がん患者補正具購入費用助成制度」が導入された。

2.研究の目的

がん治療を受ける患者の助成制度の利用状況を把握し、外見変化に対する心理的・社会的支援の必要性について明らかにすることを目的とする。

3.用語の定義

本研究のアピアランスケア相談は、がん薬物療法による脱毛、手術療法による外見変化に関する相談とする。

4. 研究計画

1) 研究対象

院内がん登録データから抽出したアピアランスケア相談を受けた患者

2)研究の評価項目

(1)アピアランスケアの相談件数および、がん患者補正具購入費用助成制度の利用者数

(2)公費助成制度利用者から、①経済的負担 ②仕事・外出・社会活動時の気持ちの変化 ③友人・他者との関係性の変化 ④がん治療に対する気持ちの変化について、心理的、社会的側面からアピアランスケアに対する思いと公費助成制度利用後の変化を抽出する。

3)データ収集方法

(1)対象患者の主治医の診察時(呼吸器内科医師、外科医師)または、日本看護協会認定看護師(緩和ケア 2 名、がん化学療法看護 1 名)の面談時、がん患者補正具購入費用助成制度について文書と口頭にて情報提供する。

(2)情報提供した患者、アピアランスケア相談を受けた患者について、リストを作成して臨床的背景因子 (年齢、性別、就労、がん種、治療内容) を解析する。

(3)定期診察日に認定看護師の継続的支援による面談を行う。医療用ウイッグ、乳房補正具の購入状況および、情報提供後の助成制度の利用状況について対象者より面談を通して聴取する。

(4)面談内容は医師診療記録、認定看護師看護記録に記載し、電子カルテから後方視的に調査する。

5.研究における倫理的配慮

1)特定の個人を識別することのできないようにデータ収集を行うため、個人情報が特定される等の危険性は少ないと考えられる。

2)この課題は患者への侵襲や人体から取得された試料の利用がなく既存の診療情報等の情報を用いた研究となる。

3)研究の概要を当院の掲示板やホームページなどに公開して、研究対象者が自身の情報を本研究に利用されることを拒否する機会を保証する。

6.研究期間

2021 年 3 月から 2023 年 3 月まで

7.研究実施者および連絡先

研究代表者:

富山労災病院　腫瘍内科　菓子井達彦

分担研究者(代表):

富山労災病院　看護部　浜田晶子